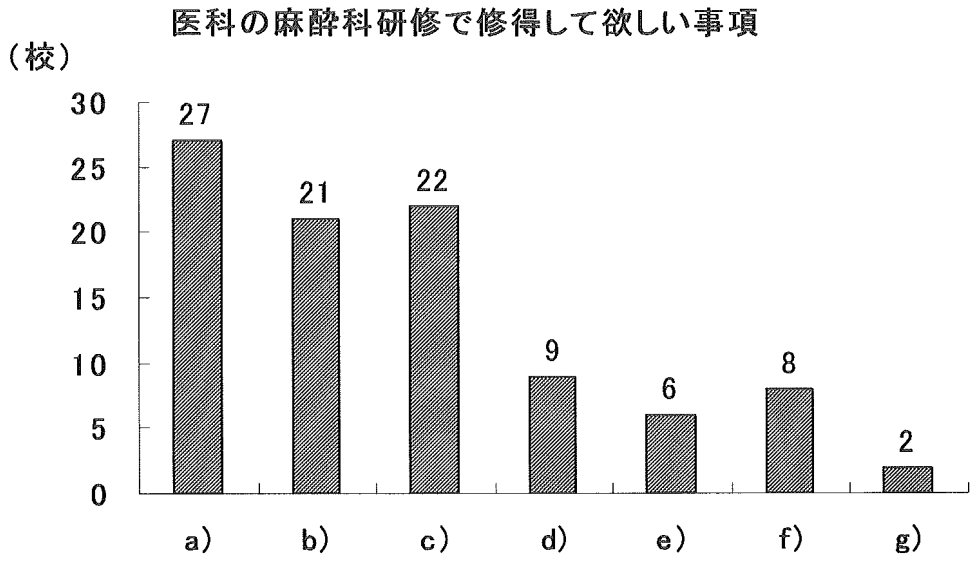
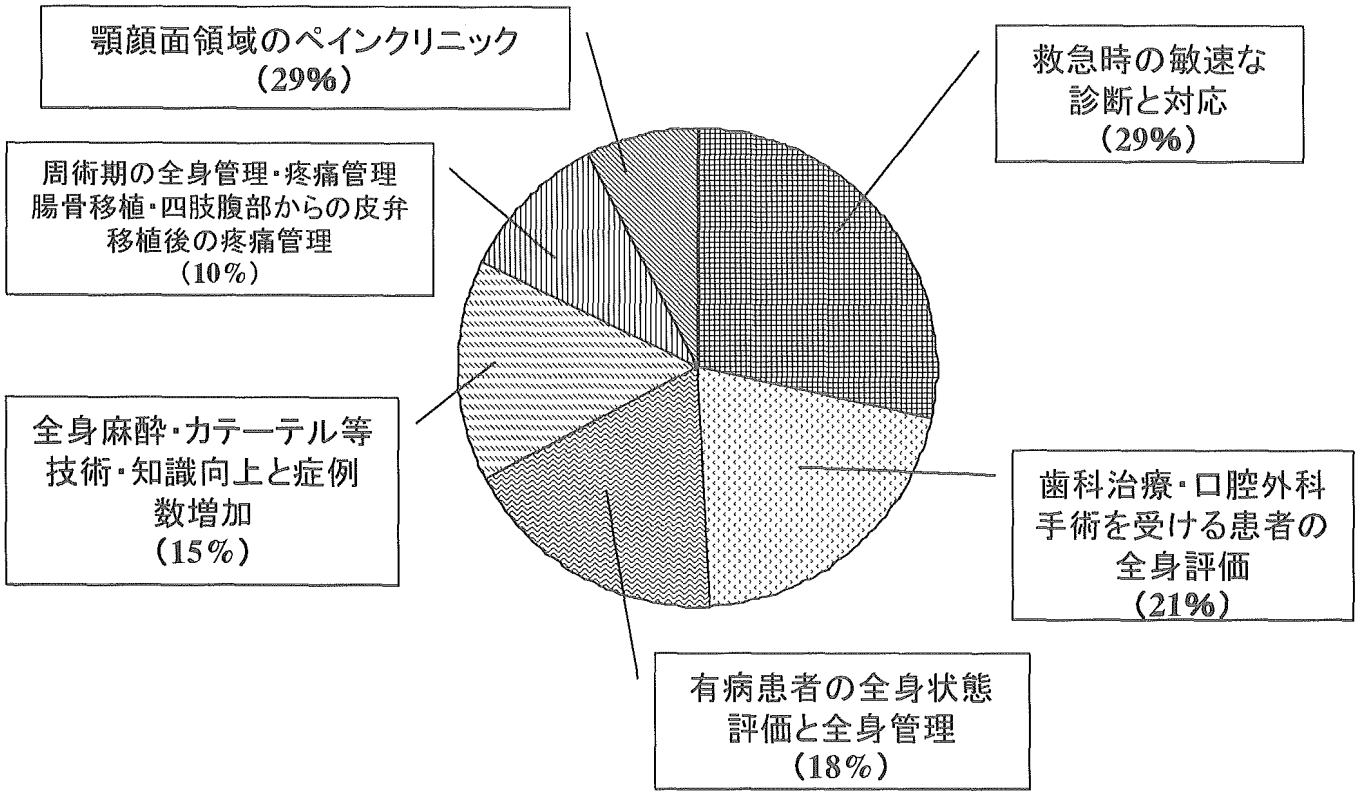
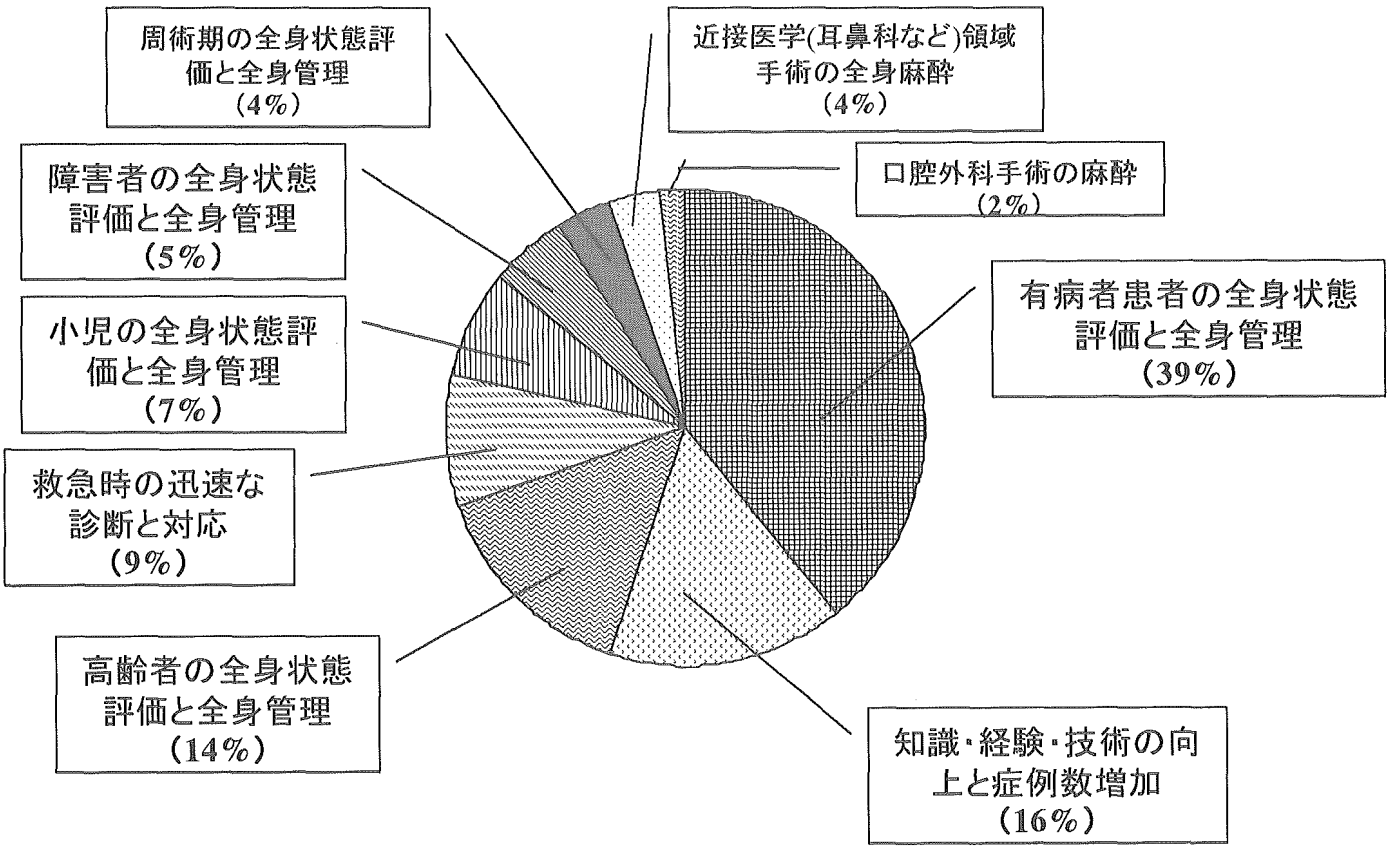


a) 全身状態評価と全身管理の基本技術と知識
b) 全身麻酔
c) 全身的偶発症や緊急時への対応
d) 硬膜外麻酔
e) IVH・Swan-Ganz catheterの操作
f) 神経ブロック
g) その他

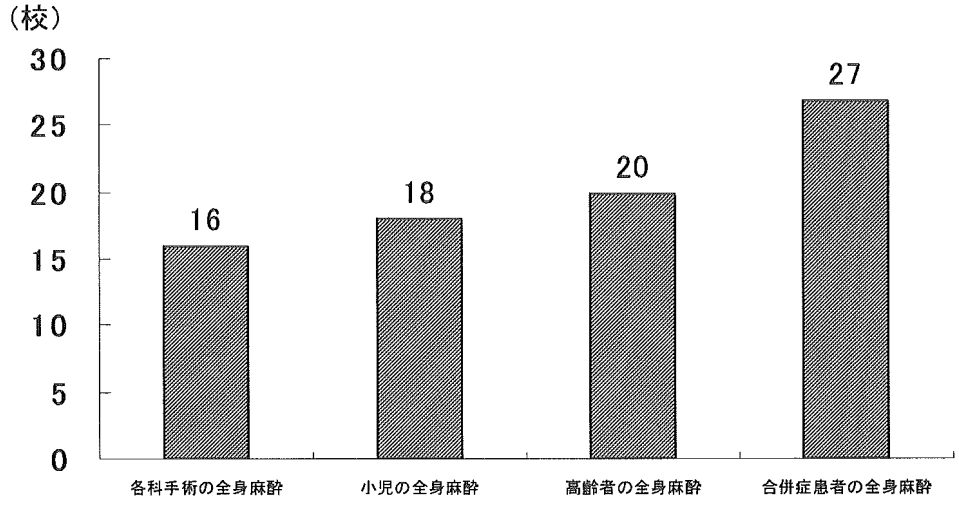
医科研修が歯科麻酔業務に役立っている事項



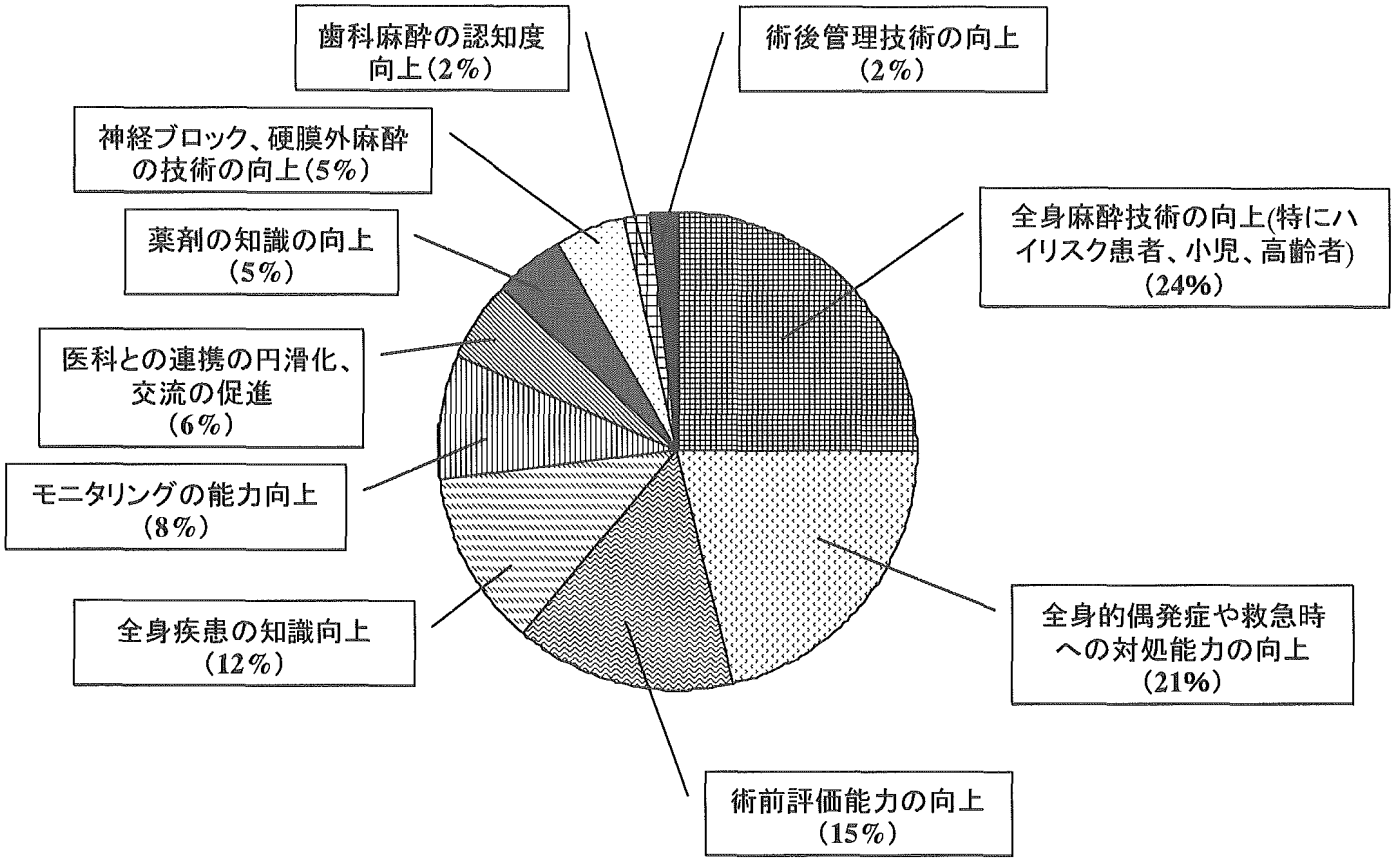
医科での全身麻酔の研修で歯科麻酔業務に役立つ事項



医科の全身麻酔研修で最も期待する事項

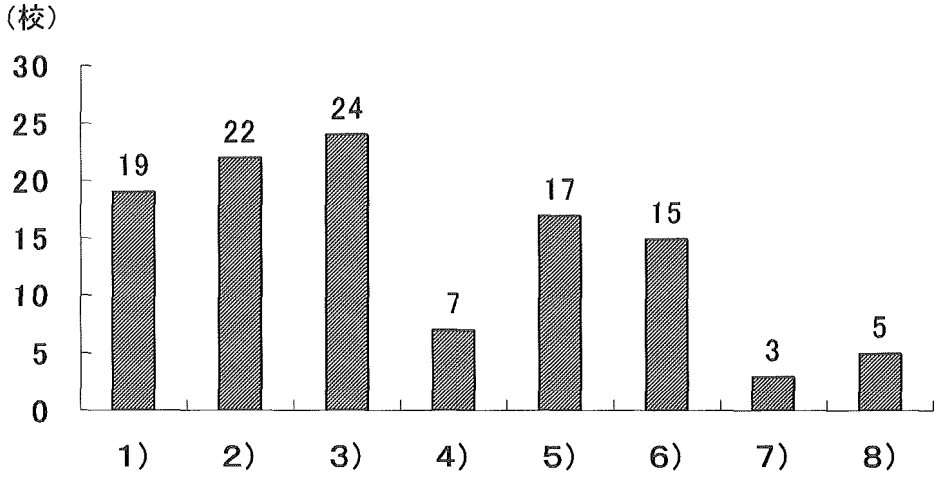


医科研修での修得成果


歯科麻酔の認知度向上(2%)
術後管理技術の向上(2%)
神経ブロック、硬膜外麻酔の技術の向上(5%)
全身麻酔技術の向上(特にハイリスク患者、小児、高齢者)(24%)
薬剤の知識の向上(5%)
医科との連携の円滑化、交流の促進(6%)
モニタリングの能力向上(8%)
全身疾患の知識向上(12%)
全身的偶発症や救急時への対処能力の向上(21%)
術前評価能力の向上(15%)

そ　の　他

開業歯科医が歯科麻酔科または日本歯科麻酔学会認定医に最も期待している事柄



1) 有病者・高齢者の全身状態評価
2) 有病者・高齢者の全身管理
3) 救急事態への対応(局所麻酔時の偶発症への対応も含む)
4) 全身麻酔
5) 精神鎮静法
6) モニタリング
7) 局所麻酔
8) その他

II. 分担研究報告

3. 歯科医師の麻酔科研修の実態に関する研究
（医科麻酔科を対象として）

1) 報告書

厚生科学研究費補助金（厚生科学特別研究事業）
分担研究報告書

歯科医師の麻酔科研修の実態に関する研究（医科麻酔科を対象として）

分担研究者　澄川耕二　長崎大学医学部教授

研究要旨　歯科医師の麻酔科研修の実態をアンケート調査した。全国80医科大学・医学部の麻酔科学講座と36の日本麻酔科学会麻酔指導病院を対象とし、麻酔科研修で修得してほしい成果、研修内容、研修生の臨床以外の内容、および期待される研修医像（どのレベルの歯科医師が研修に来るべきか）などについて調査した。

A．研究目的

歯科・口腔外科疾患以外の症例に対する歯科医師の麻酔行為は、医師法に抵触し認められないものであるが、歯科医療の技術向上と国民への寄与を考えたときに、その必要性から研修という限定条件の下で行われてきている。歯科医師の医科における麻酔科研修は、これまでに明確な法的根拠が無く、また研修内容についてのガイドラインが存在しないことから、研修方法や内容は現場の判断に任されてきたのが実態である。

そこで、今後の歯科医療の質的向上及び安全性の確保を推進し、現在、施設毎に異なって行われている様々な形態、様々な内容の歯科医師の麻酔科研修を統一的なものとするために、関係者のコンセンサスを得、一定条件の下で歯科医師の医科における麻酔科研修を適正に行うためのガイドラインを、法的な整合性、今日までの経緯と現状を踏まえ、社会的な受容を視野に入れつつ医科領域と歯科領域との専門家による共同作業により作成することを目的として本厚生科学特別研究事業が行われた。

この分担研究は、ガイドラインを作成か、研修を行う歯科医師が医科での麻酔するための基礎データを得る目的で、全国80医科大学・医学部の麻酔科学講座と36の日本麻酔科学会麻酔指導病院を対象とし、麻酔科研修で修得してほしい成果、研修内容、研修生の臨床以外の内容、および期待される研修医像（どのレベルの歯科医師が研修に来るべきか）などについて調査した。

B．研究方法

全国80医科大学・医学部の麻酔科学講座と36の日本麻酔科学会麻酔指導病院にアンケート調査した。調査した項目は以下のとおりである。

1）麻酔科研修で修得してほしい成果
2）研修内容
3）研修生の臨床以外の内容
4）期待される研修医像（どのレベルの歯科医師が研修に来るべきか）

C．研究結果

全国医科大学・医学部の麻酔科学講座（対象：80施設）および日本麻酔科学会麻酔指導病院（対象：36施設）

対象合計：116施設
回収：麻酔科学講座　68施設
　　麻酔指導病院　25施設
　　不明　1施設
　　総計　94施設
回収率：麻酔科学講座　85.0％
　　麻酔指導病院　69.4％
　　総計　81.0％

歯科医師の麻酔科研修は83％の施設で受け入れており、研修医の受け入れを開始してからすでに15年以上経過した施設が約半数を占めた。

研修開始時に歯科医師に期待する技能と、実際に歯科医師が行える技能に大きな差はなかった。その一方で、研修開始時に歯科医師に期待する知識に対して、実際に歯科医師が有していた知識はやや不足しているという意見が多かった。

しかし、麻酔科研修を通じて指導医が期待している全身状態評価と全身管理に関する基本的な知識および技能に関しては、研修の終了時には十分に修得したという意見が多く、研修の成果が示されたものと思われる。

指導医からは、歯科医師も全身に関する知識を十分に身につける必要があるという意見が多く述べられており、医科の側でも歯科医師の麻酔科研修の重要性を指摘する声が強かった。

D．考察

医科の麻酔科研修を終了した歯科医師が、その後の教育・臨床・研究活動の中で研修で修得した知識や技術を歯科口腔外科の手術のための全身麻酔ばかりでなく、歯科外来の高齢者や有病者患者に対する歯科治療時の全身状態評価と全身管理、全身的偶発症や緊急時の迅速な診断と対応などの面で臨床に還元していることは、麻酔研修の指導医の側にも十分に認識されていると考えられる。このことは、医科の側でも歯科医師の麻酔科研修の重要性を指摘する声が強かったことからも明らかである。したがって、歯科医師の麻酔科研修は、歯科医療の安全性と質を向上させるためにも、今後も是非継続されるべきことであると考えられる。

E．結論

今回の分担研究から、現在、歯科医師の麻酔科研修が広く行われており、研修で得た知識や技能は大学病院の教育・研究・臨床に還元されるばかりでなく、地域の歯科医療においても有効に活用され、広く歯科医療の安全性と質の向上に貢献していることが、研修を指導する医師の側にも十分に認識されていることが明らかとなった。歯科医師の麻酔科研修は、歯科医療の安全性と質を向上させるためにも、今後も是非継続されるべきことであると考えられる。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

1．論文発表

なし

2．　学会発表

なし

H．知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3.その他

なし

II. 分担研究報告

3. 歯科医師の麻酔科研修の実態に関する研究
（医科麻酔科を対象として）

2) 資料　歯科医師の麻酔科研修に関するアンケート内容と結果
（医科麻酔科を対象として）

歯科医師の麻酔研修に関するアンケート

貴病院名：

記入者名：

1. 貴麻酔科での平成12年度の麻酔管理症例数について記入して下さい。

a)全身麻酔症例数：　　例

b) 全身麻酔の手術別症例数

歯科医師による手術：　　例

医師による上・下顎骨手術：　　例

医師による口唇口蓋形成術：　　例

c) 局所麻酔症例数：　　例

2. 歯科医師研修を受け入れていますか。該当する項目に○をつけて下さい。

a) 受け入れている。

b) 受け入れていない。

3. 歯科医師研修を受け入れている施設にお尋ねします。

1）貴科で歯科医師の麻酔研修を始めて何年になりますか？

a)　5年未満　b)　5～10年　c)　10～15年　d)　15年以上

2）貴科で研修している歯科医師の所属について該当する項目に○をつけて下さい（複数回答可）。

a) 歯科麻酔科

b) 口腔外科

c) その他の歯科（　　）

3) 貴科での歯科医師の研修開始年次について該当する項目に○をつけて下さい（複数回答可）。

a) 歯学部卒後１年目
b) 同２年目
c) 同３年目
d) 同４年目
e) 同５年目以降

4) 貴科での歯科医師の研修期間について該当する項目に○をつけて下さい（複数回答可）。

a) ３ヶ月未満
b) ３ヶ月以上～６ヶ月未満
c) ３ヶ月以上～12ヶ月未満
d) 12ヶ月以上

5) 歯科医師の麻酔研修を年間最高何人指導していますか？該当する項目に○をつけて下さい。

a) １人　　b) ２人　　c) ３人
d) ４人　　e) ５人以上

6) 研修開始時の歯科医師に期待する技能について該当する方に○をつけて下さい。

a) 気管挿管　・できる　・できなくてよい
b) 静脈路確保　・できる　・できなくてよい
c) 胸部聴診　・できる　・できなくてよい
d) 医療面接　・できる　・できなくてよい
e) その他コメント：

7）研修開始時の歯科医師の実際の技能について該当する方に○をつけて下さい。

a）気管挿管　・できる　・できない
b）静脈路確保　・できる　・できない
c）胸部聴診　・できる　・できない
d）医療面接　・できる　・できない
e）その他コメント

8）研修開始時の歯科医師に期待する知識について該当する方に○をつけて下さい。

a）麻酔薬および関連薬剤についての知識　・必要　・不要
b）基本的術前検査データの判定　・必要　・不要
c）心電図診断　・必要　・不要
d）胸部X線診断　・必要　・不要
e）動脈血ガス分析診断　・必要　・不要
f）その他コメント：

9）研修開始時の歯科医師の実際の知識について該当する方に○をつけて下さい。

a）麻酔薬および関連薬剤についての知識　・十分　・不十分
b）基本的術前検査データの判定　・できる　・できない
c）心電図診断　・できる　・できない
d）胸部X線診断　・できる　・できない
e）動脈血ガス分析診断　・できる　・できない
f）その他コメント：

10) 研修終了時に歯科医師に修得して欲しいものは何ですか？　該当する項目に○をつけて下さい（複数回答可）。

a) 全身状態評価と全身管理に関する基本的技術と知識
b) 全身麻酔
c) 局所麻酔（脊椎麻酔・硬膜外麻酔を含む）
d) IVH、Swan-Ganz catheter の操作
e) 救急・集中治療
f) 神経ブロック
g) その他コメント：

11) 研修終了時に歯科医師が修得した内容について該当する項目に○をつけて下さい（複数回答可）。

a) 全身状態評価と全身管理に関する基本的技術と知識
b) 全身麻酔
c) 局所麻酔（脊椎麻酔・硬膜外麻酔を含む）
d) IVH、Swan-Ganz catheter の操作
e) 救急・集中治療
f) 神経ブロック
g) その他コメント：

12) 研修中の歯科医師が麻酔を担当する手術の種類は何ですか（複数解答可）

a) 歯科医師の執刀する手術
b) 口腔外科手術（医科、歯科を問わず）
c) 脳外科手術
d) 顔面頚部手術
e) 胸部外科手術
f) 腹部外科手術
g) 心臓外科手術
h) その他の手術

（　　）

13) 術前患者訪問（前投薬処方を含む）について

a) 歯科研修医が単独で行い、指導医に報告しない。

b) 歯科研修医が単独で行い、指導医に内容を報告し、承認を得る。

c) 歯科研修医には医師が同行する。

d) 歯科研修医は術前訪問をしない。

e) その他コメント：

14) 歯科医師が麻酔を担当することを患者に説明しますか

a) 説明する。

b) 説明しない。

15) 歯科医師の個人差あるいは出身医局（歯科麻酔科か口腔外科かなど）によって研修内容に差をつけていますか？　（複数回答可）。

a) 研修医の個人差によって研修内容に差をつけている。

b) 出身医局（歯科麻酔科か口腔外科かなど）によって研修内容に差をつけている。

c) 研修内容に差をつけていない。

d) その他コメント

16) 研修の歯科医師は、抄読会等の医局行事に参加しますか。

a) 全ての医局行事に参加する。

b) 一部の医局行事に参加する。

c) 医局行事には参加しない。

5. 上記アンケート項目以外で御意見があれば御記入ください

御協力有り難うございました。

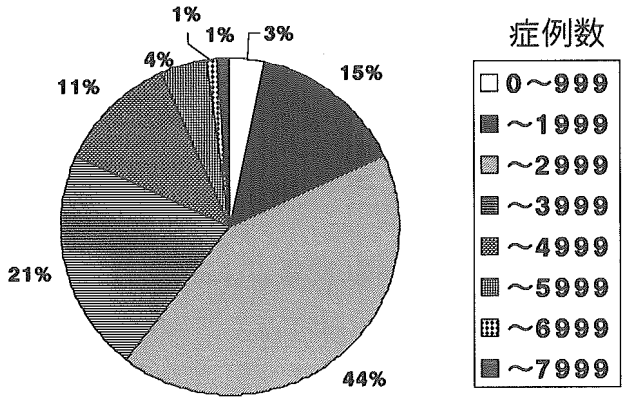
歯科医師の麻酔研修に関するアンケート

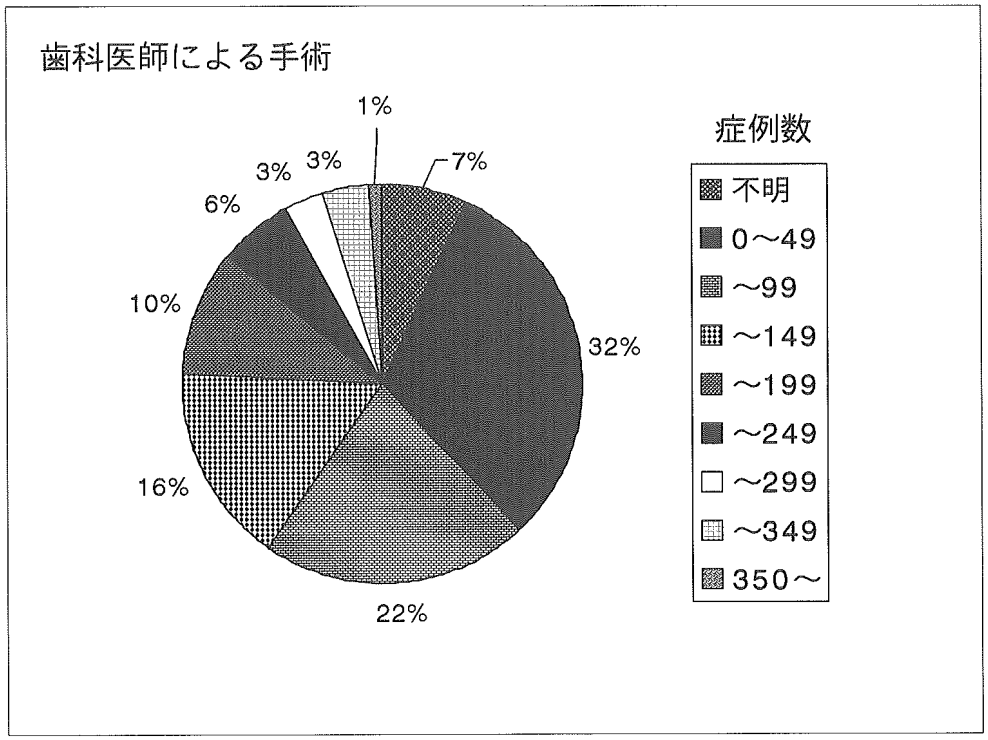
対象　　医学部付属病院：80施設・麻酔指導病院：36施設
計116 施設

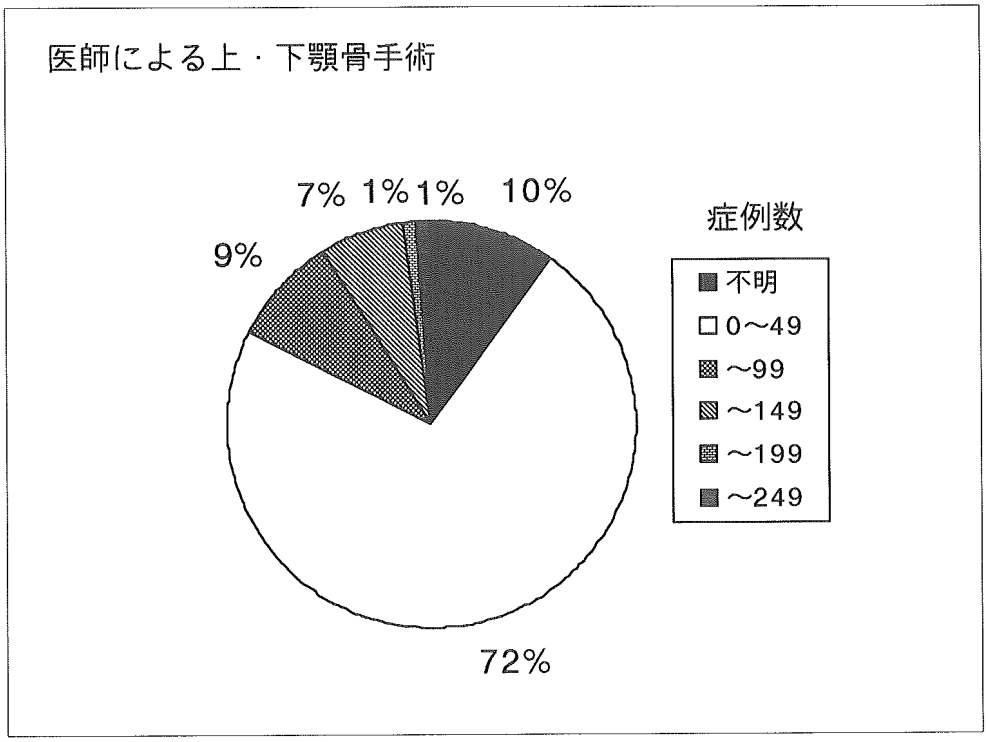
回収件数　　医学部付属病院：68 件、麻酔指導病院：25件
不明：1件　　計94件

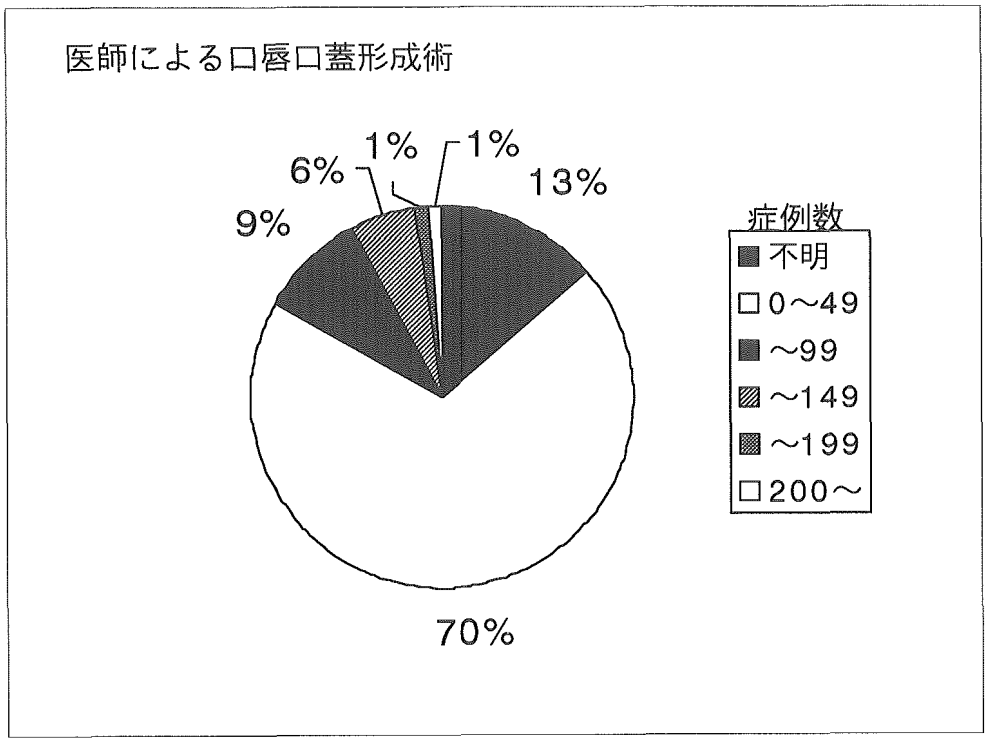
回収率　　医学部付属病院：85.0%、麻酔指導病院：69.4%
計：81.0%

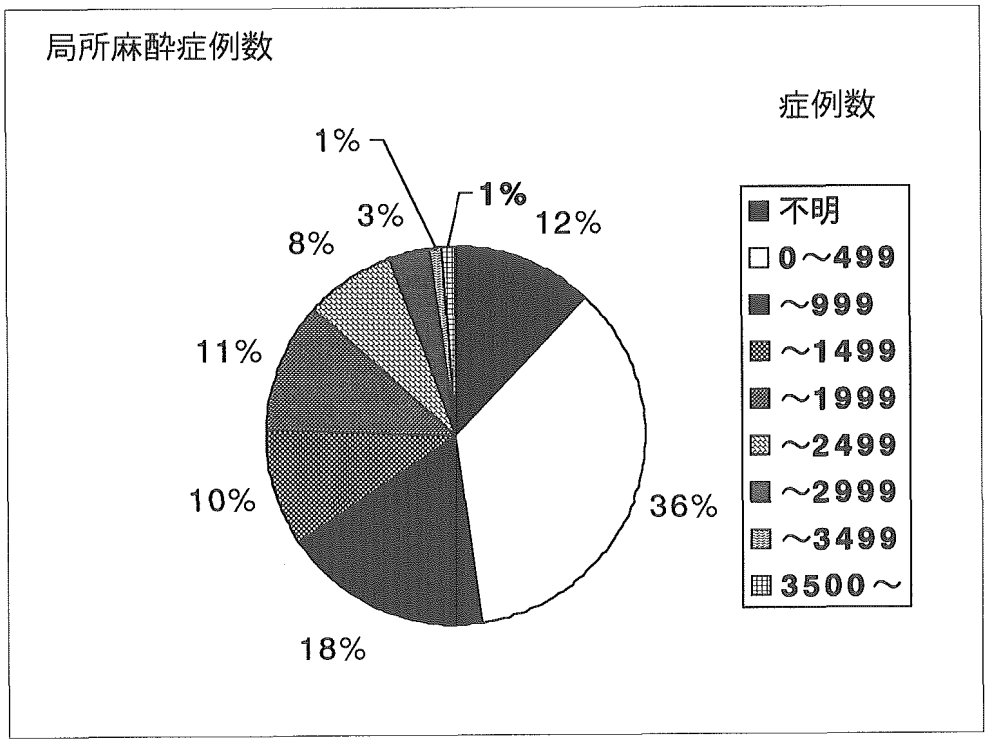
歯科医師の研修医科系施設における
全身麻酔症例数



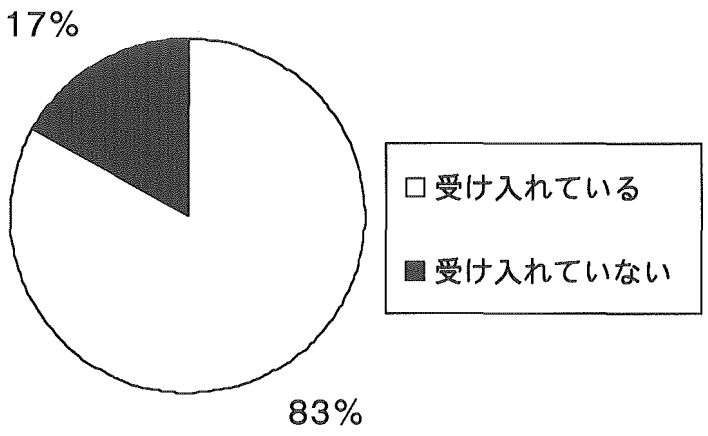

歯科医師による手術
1%
7%
3%
3%
6%
10%
32%
16%
22%
症例数
不明
0～49
～99
～149
～199
～249
～299
～349
350～


医師による上・下顎骨手術
7%
1%
1%
10%
9%
72%
症例数
不明
0～49
～99
～149
～199
～249

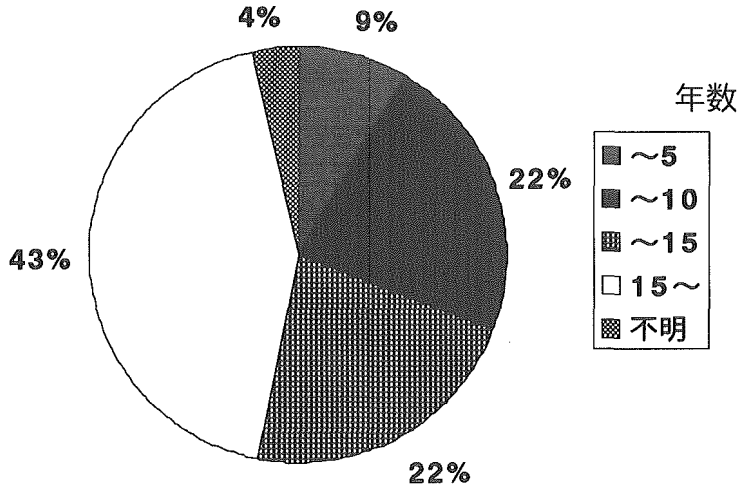

医師による口唇口蓋形成術
1%
1%
6%
13%
9%
70%
症例数
不明
0～49
～99
～149
～199
200～


局所麻酔症例数
症例数
1%
1%
3%
12%
8%
11%
10%
36%
18%
不明
0～499
～999
～1499
～1999
～2499
～2999
～3499
3500～

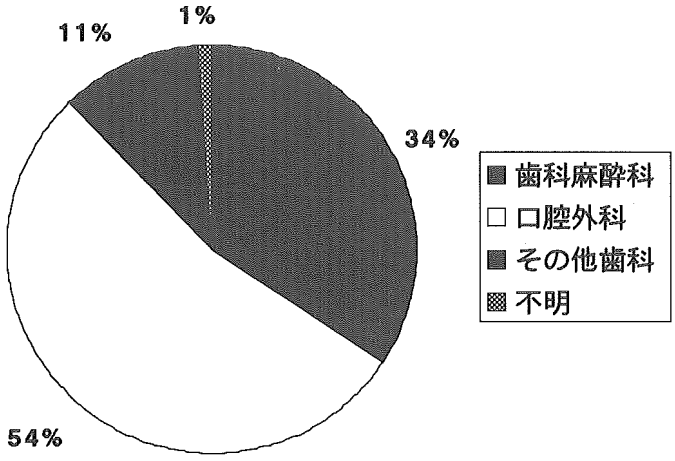
歯科医師研修の受け入れ状況

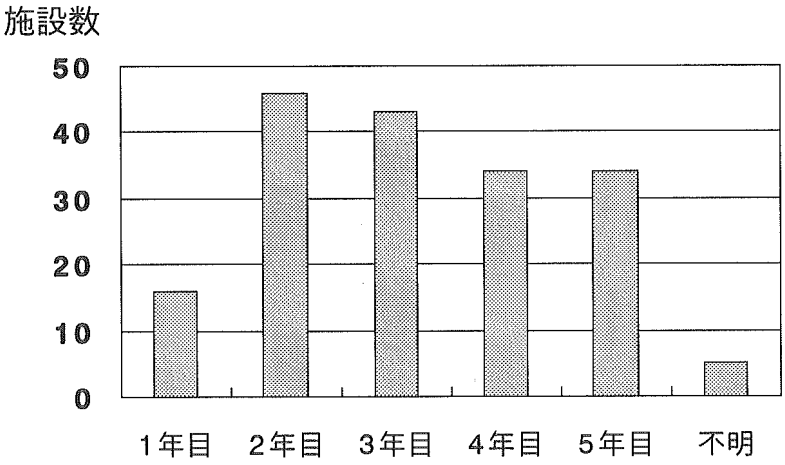


歯科医師の麻酔研修を始めてからの年数



医科で研修している歯科医師の所属



「その他の歯科」の内訳
病院歯科勤務医（全日研修）
病院歯科勤務医（週一回研修）
開業歯科医，開業歯科勤務医（週一回研修）

歯科医師の麻酔科研修開始年次